

平成30年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 佐賀市上下水道局	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 百崎 晋平 下水プロジェクト推進部 下水道企画室 TEL:0952-33-1333 FAX:0952-33-1505 Mail:snmomosaki@city.saga.lg.jp
代表者氏名 佐賀市上下水道事業管理者 田中 泰治	

部門名 行政部門	事例名 佐賀発！下水道資源の更なるブランド力UP
-------------	-----------------------------

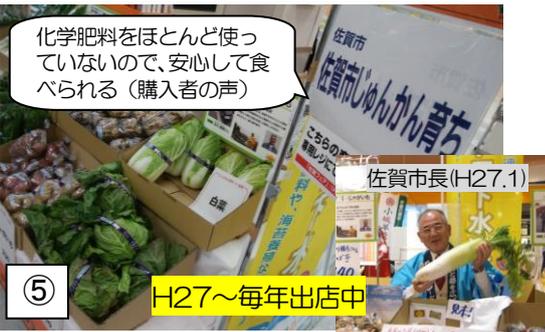
事例の概要

佐賀市下水浄化センターでは汚泥の堆肥化を平成21年より実施しており、地元農家等に対する農業勉強会の開催など肥料の有効性や安全性の啓発に努めてきた。これも含めた下水浄化センターの活動を①**低炭素杯2017**で発表したところ、951件の応募の中から環境大臣賞グランプリを受賞し、全国に下水道のポテンシャルの高さを示す結果が得られた。昨年には下水道発食材が「**じゅんかん育ち**」と命名されたことから、下水汚泥肥料の更なる普及促進、農産物の品質の高さをアピールする目的として②～⑤の取組みを実施し、その様子は新聞やテレビでも報道された。

- ① **低炭素杯2017グランプリ受賞**(東京都日経ホール H29.2.16)
- ② **じゅんかん育ちシールの作成及び配布**
- ③ **じゅんかん育ち展示会の実施**(さが環境フェスティバル 佐賀市 H29.10.14～15)
- ④ **じゅんかん育ち試食会の実施**(GKP未来会in九州 長崎大学 H29.10.23)
- ⑤ **じゅんかん育ち販売会の実施**(イオン九州 佐賀市 H30.1.19～21)



① プレゼン動画URL：  
<https://www.zenkoku-net.org/teitan/sohai/history/2017/movie.php>



化学肥料をほとんど使っていないので、安心して食べられる (購入者の声)

⑤ H27～毎年出店中



「下水道の最新技術」をテーマに未来会メンバーと学生がディスカッションを行った。産官学連携では、下水道局の職員が、冒険・長崎出身のミズ日本・水の天使「宮崎あずさ」が、自身の活動とともに、就職活動でのエピソードを語り、水の天啓の活動を通じて「じゅんかん育ち」を日々考えている話した。

「じゅんかん育ちのように食につながることを知り、下水道すべてが汚いというわけではないとわかった (学生の声)」

④ 下水道新聞 (H29年10月25日)  
長崎大でセミナー開催  
九州で初の「じゅんかん育ちも試食」  
GKP未来会は、下水道を未来につなげる活動となり、23日、長崎市の長崎大学文政キャンパスで水環境システム工学を開催した。同大学の工学部社会環境学系主任の森田先生ら約40人を前に、未来会メンバーが、下水道の仕事を魅力を語り、下水道のエンジニアを誇る水環境の天啓の活動を通じて「じゅんかん育ち」を日々考えている話した。その後、「産官学連携」をテーマに未来会メンバーと学生がディスカッションを行った。産官学連携では、下水道局の職員が、冒険・長崎出身のミズ日本・水の天使「宮崎あずさ」が、自身の活動とともに、就職活動でのエピソードを語り、水の天啓の活動を通じて「じゅんかん育ち」を日々考えている話した。また「じゅんかん育ち」のポスターのみなさんの試食も行われた。

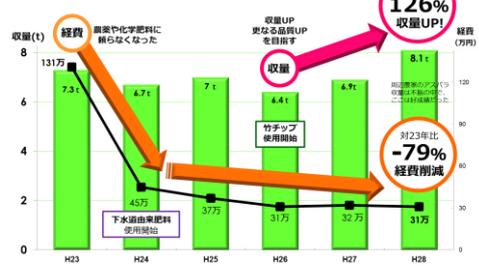
エントリー事例の特徴

全国あらゆる自治体、企業、学校等が参加する「低炭素杯」の発信力を活かし、地球温暖化防止といった観点で下水道のポテンシャルの高さを**分野横断的にアピール**することができた。

「じゅんかん育ち」については、シールを用いてイベントで展示、販売することで**他の農産物との差別化・ブランド力UP**を図ると共に、試食してもらうことで**品質の高さを実感**していただいた。

また、農家の具体的な経費削減や収量UPの事例を紹介するなど、**より説得力の高い広報**を図っている。

〈農家の事例〉



付属資料の提出 ( ) あり ( ) なし (どちらかに○)